

自己評価結果公表シート

1・学校の教育目標

- ・豊かな宗教的情操教育の中で、心身の調和的な発達を図り、一人ひとりの子どもが幸せな生活のできる礎を築く。
- ・様々な遊びを通して、子ども達の意欲を高め、あらゆる人々との関わりを大切にしながら、自分達で遊びを展開していく楽しさを味わう。
- ・スローガン「明日も行きたい幼稚園」～子ども達の笑顔を守るため～

2・本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ・教員間の連携を円滑にし、全ての教員が共通のねらいのもと、保育に取り組む
- ・担任だけではなく、全ての教員が全園児への保育に携わる
- ・特別支援教育についての教員の知識を高め、対象児やクラス全体に対し、適切な対応を行えるようにする

3・評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
・保育の実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	B	学年毎に週一回の学年研修を行い、保育実施に関しての共通理解に努め、クラス間での保育の差が出ないように努めた。また園内研修で教職員が共通理解のもと行事等にのぞめるようにしてきた。
・チーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況	B	各教諭がクラスの枠にとらわれることなく子ども達に関わるよう心がけている。特に配慮が必要な場合は、それを全教員に伝え、皆で配慮できるようにしてきた。また、フリーの教員がクラス担任のカバーもできる体制を作った。
・特別支援コーディネーターの指名や園内研修の実施等、特別支援の為の支援体制の整備	A	特別支援のコーディネーターを指名し、園内研修を毎月1回以上実施。園内全体で特別支援に関しての知識を深めた。対象児に関しては保護者とコーディネーターと園が3者一緒に話し合う場も設け、その子に応じた対応を行えるようにした。

4・学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	子ども1人ひとりに、よりよい保育や対応が出来るように、教職員の体制作りと知識の向上に努めた。 年度開始当初はうまくいかなかった事も多かったが、後半からは各教職員が同じ目標に向けて、各研修や対応に取り組めた。

「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5・今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の共通理解が出来てはいるが、教師1人ひとりの経験による指導力、対応力の差があること	園内研修、学年研修だけでなく、各教職員が更に資質向上できるように、自分の保育を見つめ、研鑽していくようにする。 (ex) 他の先生の保育を見る。自分の保育をビデオ等を使って振り返る。細かいことも少しでも疑問に思えば、報告・連絡・相談する。
特別支援の為の更なる知識向上	特別支援教育対象児だけでなく、その子を取りまくクラス全体の園児に対し、どのように接していくか？ クラス運営まで視野に入れて更なる知識向上を目指し、園内研修にはげんでいく。